

付着生物ラーバ情報

1 ラーバの出現状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ

ラーバは奥内沖で3.3個体/m³見られました(図2)。

(2) オベリア類(クラゲの仲間、通称クサ)、キヌマトイガイ

クラゲ、ラーバは見られていません。

(3) アミクサ(海藻、通称クサ)

小枝は奥内沖で0.8個体/m³見られました。

(4) マボヤ

ラーバと卵は奥内沖でそれぞれ5.0個体/m³、0.8個体/m³見られました。

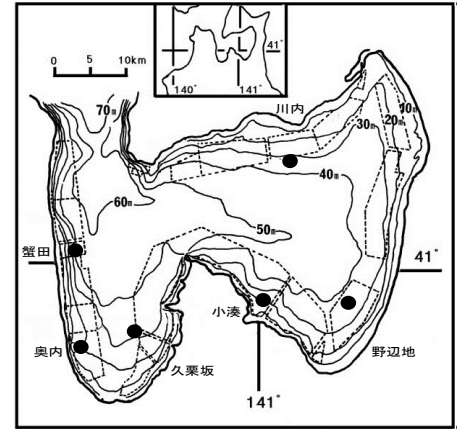


図1 ラーバ調査地点

2 今後の見込み

ユウレイボヤは、水温が20℃以下に低下すると産卵し、**例年10~12月がラーバの出現ピーク**になっています。現在、陸奥湾の中層水温が14~16℃台まで低下したにもかかわらず、西湾でラーバがわずかにしか見られないことから、**分散済みの籠への今秋における付着は少ない**と考えられます。

アミクサ小枝の本格的な出現は12月以降、オベリア類とキヌマトイガイの付着は年明けになるものと思われます。

マボヤのラーバと卵が見られているので、今後**付着が進む**ものと考えられます。

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	マボヤ		キヌマトイガイ	ムラサキガイ	アミクサ小枝
				ラーバ	卵			
蟹田沖	H30.11.17	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.8	0.0
奥内沖	H30.11.19	3.3	0.0	5.0	0.8	0.0	0.0	0.8
久栗坂沖	H30.11.19	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.2	0.0
小湊沖	H30.11.15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
川内沖	H30.11.19	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.7	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

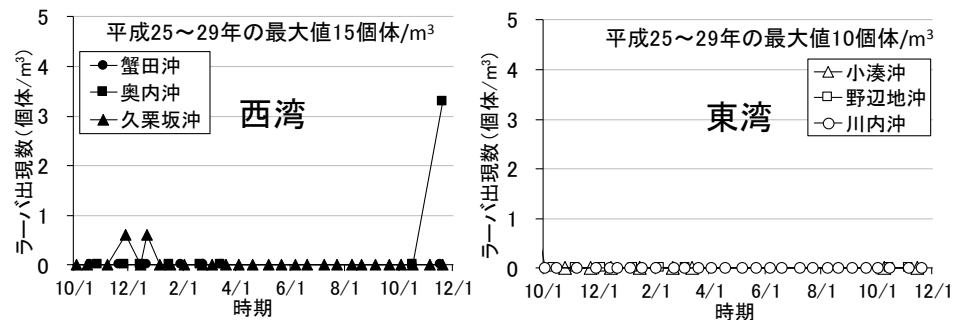


図2 ムラサキガイ・ラーバ出現数の推移(平成29年10月~平成30年11月)

3 ユウレイボヤとオベリア類の付着予測

10月~翌年3月までのユウレイボヤ累積ラーバ数(久栗坂)、オベリア類累積クラゲ数(蟹田、奥内、久栗坂)、12月~翌年3月までの青森ブイ水深15m層の平均水温と出荷時期のパールネット1連の付着量の関係を調べたところ、**平均水温が8℃以上であればラーバ(クラゲ)累積出現数が多くても付着量が少ない**ことが分かりました(図3)。ちなみに青森ブイの平均水温の平年値は8.1℃です。

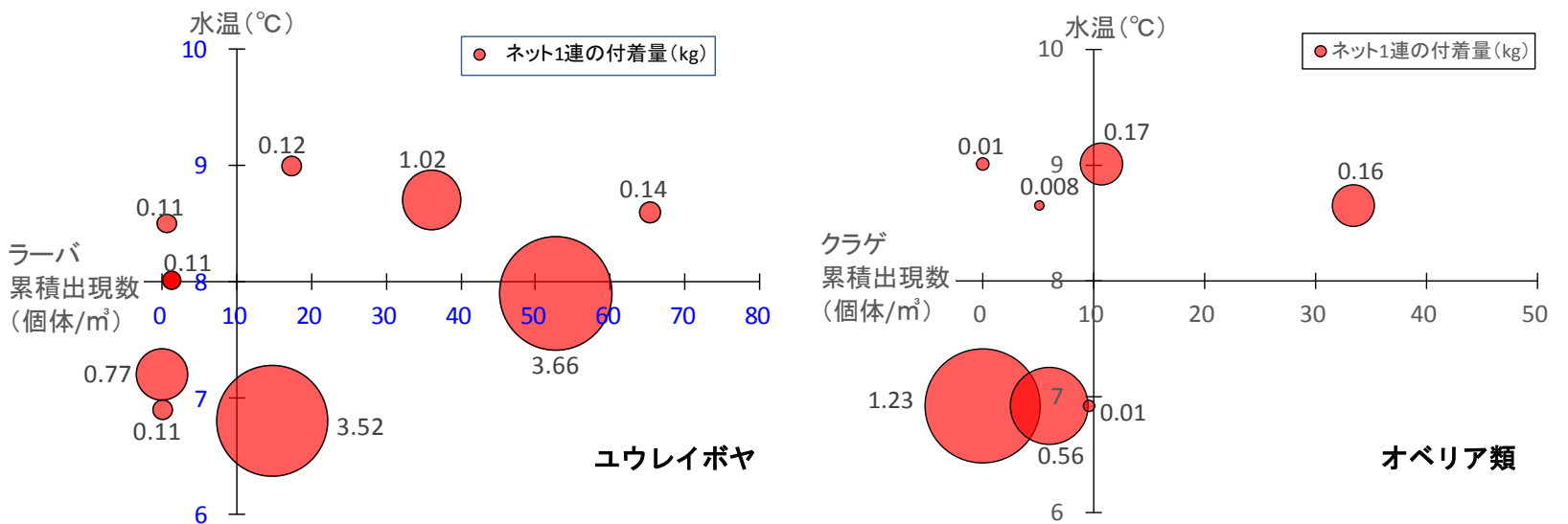


図3 西湾におけるユウレイボヤのラーバ(左図)とオベリア類のクラゲ(右図)の累積出現数、青森ブイ水深15mの平均水温とパールネット1連の付着量の関係(O印の中心はプロット位置、面積は付着量)

